

## 財務の目標を持つ

白紙の資金別貸借対照表に自社の望む経営状況を書いてみて下さい。

これが財務の目標です。

月次試算表の資金別貸借対照表の下には「財務の基本目標は安定資金を+にすることです。」と記載しています。詳しい説明は省きますが、この「安定資金の+の状態」を資金会計理論では利益が生じる状態と考えています。

ニュー資金別貸借対照表の方には「正味損益資金が+の場合は無借金経営で、この状態が財務の最終目標です。」と記載しています。これは、正味損益資金が+ = 実質的に無借金経営だとする考え方によるものです。利益が計上されて、しかも実質的に無借金である状態は良い会社だと断言できます。つまり、会社の規模の大小、売上高の多い少ない、または従業員数の多い少ないなどということは問題にはなりません。

財務の目標を書いた資金別貸借対照表と月次試算表の資金別貸借対照表と比較してみると、差額がでてきますね。これを各資金の改善の目標にしましょう。

損益資金の改善についての例を挙げます。月次試算表をお持ちの方は表紙の裏参照してください。

調達を改善すると売上高をアップさせるということになります。

$$\text{売上} = \text{数量} \times \text{単価}$$

数量のアップつまり数を増やす場合

- ① 新規のお客様を増やすのか？
- ② 今いるお客様にもう一度購入してもらうのか？

など、自社の状況に合ったいくつかの考え方があると思います。

単価で売上高をアップする場合は、

- ① 単純に売価をアップするのか？
- ② いるお客様に違う商品を購入してもらうのか？

といったことが想定できますね。

なお、過去に経営計画方針書セミナーに参加された方は第10講「資金別貸借対照表を利用して財務上の仮説を立てる」を再度参照して下さい。資金別貸借対照表の用紙を添付しています。

セミナー及び理想とする資金別貸借対照表の作成についてお尋ねの方はご遠慮なくお知らせ下さい。